

大崎モデルを世界へ！



インドネシア国・デポック市における

ごみ資源化で埋め立て処分量の減量化に挑戦

～「混ぜればごみ・分ければ資源」への意識改革～



インドネシアから視察団

6月16日(月)から20日(金)までの5日間、インドネシア国デポック市から行政、コミュニティなどで環境・地域振興の分野に携わるリーダー5名が本町を訪れました。

独立行政法人国際協力機構(JICA)の補助(平成24年度から平成26年度までの3年間)を受け、インドネシア国デポック市の廃棄物の減量化および環境教育を支援する『草の根技術協力事業』の一環として受け入れを行っているものです。

視察団は、家庭での生ごみ・一般ごみの分別状況や集落内でのリサイクル状況などを視察し、また、大崎有機工場では生ごみの搬入や堆肥化への学習、そして、そおりサイクルセンターでは中間処理状況などの研修を行いました。

閉講式で、西ジャワ州地域振興局・デポック市の行政政府課長のデュディ・ミラツ・イマデュッディンさんは、「大崎町で学んだことをデポック市民が理解するまでには時間がかかります。しかし、私たちはデポック市でこのリサイクルシステムを完全に実施するために頑張つて努力します。」と話されました。



コンポスト(堆肥化)体験(大崎有機工場)



生ごみの収集状況



自治会での資源ごみ収集状況



大崎小学校での分別状況



研修成果報告会(アクションプラン)



ごみ分別の実習(リサイクルセンター)



5日間の視察研修を終えたデポック市のメンバー